

ふりがな

もりむら としみ

氏名

森村 敏己

1. 学歴

- 1983年3月 一橋大学商学部卒業
- 1983年4月 一橋大学社会学研究科修士課程入学
- 1984年10月～1985年6月 ナント大学人文学部
- 1986年3月 一橋大学社会学研究科修士課程修了
- 1986年4月 同研究科博士課程進学
- 1988年10月～1989年6月 オート・ノルマンディ大学人文学部第三課程
- 1989年6月 同課程においてD.E.A.取得
- 1990年3月 一橋大学社会学研究科博士課程単位修得退学

2. 職歴・研究歴

- 1990年4月～1994年9月 明治学院大学文学部非常勤講師
- 1994年4月～1995年3月 日本大学理工学部非常勤講師
- 1994年10月 一橋大学社会学部専任講師
- 1996年4月 一橋大学社会学部助教授
- 2000年4月 一橋大学大学院社会学研究科助教授
- 2006年4月 一橋大学大学院社会学研究科教授
- 2020年4月～ 一橋大学大学院社会学研究科評議員

3. 学内教育活動 [着任年以降]

(A) 主な担当講義名

(a) 学部生向け

社会思想、社会思想史、社会思想史原典講読、社会研究入門ゼミ

(b) 大学院生向け

社会思想

(B) ゼミナール

学部後期、大学院

4. 主な研究テーマ

- (1) 18世紀フランスを主たる対象とした思想史
- (2) エルヴェシウス研究
- (3) 啓蒙の概念と評価に関する研究
- (4) 奢侈論争、商人貴族論争研究
- (5) 歴史研究における方法論

5. 研究活動 [着任前を含む]

(A) 単著

- ・『名誉と快樂—エルヴェシウスの功利主義—』、法政大学出版局、1993年9月。
- ・『アンシャン・レジームにおける貴族と商業—商人貴族論争(1756-1759)をめぐる—：一橋大学社会科学古典資料センターStudy Series』、no. 52、2004年3月
- ・『啓蒙をなぜ問い続けるのか』(歴史総合パートナーズ⑬)、清水書院、2020年10月

(B) 編著

- ・『記憶のかたち—コメモレイションの文化史—』(阿部安成らとの共編)、柏書房、1999年5月
- ・『集いのかたち—歴史における人間関係—』(山根徹也との共編)、柏書房、2004年5月
- ・『視覚表象と集会的記憶—歴史・現在・戦争—』旬報社、2006年11月

(C) 共著

- ・宮崎揚弘編『ヨーロッパ世界と旅』、法政大学出版局、1997年6月(分担部分：「素人外交とその顛末—エルヴェシウスのプロイセン旅行—」、226—257)
- ・宮崎揚弘編『続・ヨーロッパ世界と旅』、法政大学出版局、2001年3月(分担部分：「ふたつのユートピア—フェヌロンの『テレマックの冒険』—」、2—33)
- ・南川高志・小山哲編『近代ヨーロッパにおける人文主義の継承と変容—政治文化・古典研究・大学—』、京都大学大学院文学研究科「ヨーロッパにおける人文学的知形成の歴史的構図」研究会、2005年3月(分担部分：「教訓としての古代—商業的繁栄は亡国への道か?—」、119-132)
- ・一橋大学社会学部編『市民の社会史—戦争からソフトウェアまで—』、彩流社、2008年11月(分担部分「世論の社会史—十八世紀フランスの場合—」77-110)
- ・足羽與志子・濱谷正晴・吉田裕編『平和と和解の思想をたずねて』、大月書店、2010年6月(分担部分：「戦争プロパガンダとナショナリズムの限界—八世紀フランスにおけるイギリス像—」148-171)
- ・見市雅俊編『近代イギリスを読む—文学の語りと歴史の語り—』、法政大学出版局、2011年4月(分担部分：「歴史の語り—史料が表象する過去—」253-277)
- ・高橋暁生編『<フランス革命>を生きる』刀水書房、2019年11月(分担部分：「アベ・コワイエ(一七〇八～一七八二)—人気作家によるアンシャン・レジーム批判—」および「結論」11-36、241-247)

(D) 論文 [*査読付き]

- * 『『富と徳』あるいは『富と平等』—エルヴェシウスの平等思想—』、『一橋論叢』第100巻第1号(573号)、1988年7月、153—171
- ・「君主制改革と共和主義—エルヴェシウスの二つの顔—」、『思想』第790号、1990年4月、106—123
- ・「エルヴェシウスにおける奢侈論の形成」、『一橋論叢』第104巻第2号(598号)、1990年8月、57—75
- * 「エルヴェシウスの商業社会批判—ヒュームとの関連を中心に—」、『西洋史学』第161号、1991年9月、1—18
- * 「エルヴェシウス；功利主義における名誉心—道德哲学から統治改革論へ—」、『経済学史学会年報』第30号、1992年11月、37—45
- 「思想史研究という仕事」、『一橋論叢』第117巻第4号(678号)、1997年4月、71—87

- ・「フェヌロンの奢侈批判—キリスト教道徳と貴族イデオロギ—」、『一橋大学社会学研究』第36号、1997年11月、105—154
- ・「挫折した王政改革の試み—フェヌロンの『統治計画案』—」、『一橋論叢』第120巻第2号（694号）1998年8月、83—99
- ・「記憶とコメモレイション—その表象機能をめぐって—」、『歴史学研究』742号、2000年10月、184—191
- ・「商人貴族論の射程—貴族は有用な市民か—」、『一橋社会科学』第1巻、2009年11月、1-20
- ・「知られざる文人たちの奢侈批判—1782年ブザンソン・アカデミー懸賞論文—」、『一橋社会科学』第7巻、2015年7月、53-74

(E) 翻訳

- ・デュクロ『当世習俗論』、18世紀叢書第2巻『習俗』所収、国書刊行会、2001年10月、7-132
- ・ジョナサン・イスラエル『精神の革命—急進的啓蒙と近代民主主義の知的起源—』、みすず書房、2017年7月

(F) 書評

- ・中川久定『啓蒙の世紀の光のもとで—ディドロと『百科全書』—』、『日本18世紀学会年報』第11号、1996年7月、66—67
- ・佐竹寛『モンテスキュー政治思想研究』・押村高『モンテスキューの政治理論』・川出良枝『貴族の徳、商業の精神』、『日本18世紀学会年報』第12号、1997年7月、84—87
- ・川出良枝『貴族の徳、商業の精神』、『歴史学研究』第700号、1997年8月、48—50
- ・Im Hoff, *The Enlightenment*. 『日本18世紀学会年報』第13号、1998年7月、35—36
- ・石井三記『18世紀フランスの法と正義』、『日本18世紀学会年報』第15号、2000年7月、25-26
- ・Jean Paul de Lagrave (éd.), *Madame Helvétius et la Société d'Auteuil*. 『日本18世紀学会年報』第17号、2002年6月、33-34
- ・Maxine Berg and Elizabeth Eger (ed.), *Luxury in the Eighteenth-Century; Debates, Desires and Delectable Goods*. 『日本18世紀学会年報』第19号、2004年6月、49-50
- ・Michel Figeac, *L'automne des gentilshommes; noblesse d'Aquitaine, noblesse française au Siècle des Lumières*. 『日本18世紀学会年報』第21号、2006年6月、78-79
- ・Jay M. Smith, *Nobility Reimagined; The Patriotic Nation in Eighteenth-Century France*. 『日本18世紀学会年報』第22号、2007年6月、108-109
- ・二宮宏之『フランス アンシアン・レジーム論』、『史学雑誌』第117編第4号、2008年4月、106-115
- ・安藤隆穂『フランス自由主義の成立』、『西洋史学』第229号、2008年6月、73-75
- ・安藤裕介『商業・専制・世論』、『社会思想史研究』第39号、2015年9月、22—26
- ・小野寺拓也『野戦郵便から読み解く「ふつうのドイツ兵」』、『現代史研究』61号、2015年12月、49-54
- ・鷺見洋一『いま・このポリフォニー：輪切りで読む初発の近代』、『神奈川大学評論』第90号、2020年3月、150—151

(G) 学会等発表

- ・「エルヴェシウスの功利主義」、経済学史学会、1991年10月19日（弘前大学）
- ・「エルヴェシウスと『精神論』事件」、日本フランス語・フランス文学会、1993年6月12日（玉川大学）
- ・「記憶をめぐる問題」、日本18世紀学会、1999年6月20日（甲南大学）

- ・「フェヌロンの経済思想」、経済学史学会関東部会、1999年9月11日（中央大学駿河台記念館）
- ・「記憶とコメモレイションーその表象機能をめぐってー」、歴史学研究会、2000年5月28日（慶應義塾大学）
- ・「教訓としての古代ー商業的繁栄は亡国への道か？ー」、京都大学大学院文学研究科21世紀COEプログラム・シンポジウム「近代ヨーロッパにおける人文主義の継承と変容 — 政治文化・古典研究・大学 —」、2005年3月6日（京都大学）
- ・「18世紀フランスにおける商業への眼差し」第76回公共哲学京都フォーラム「商人がひらく公共世界」2007年9月15日（リーガロイヤルホテル）
- ・「アンシャン・レジームにおける「商人貴族論」の射程」日仏歴史学会、2009年3月28日（お茶の水大学）
- ・書評セッション「小野寺拓也『野戦郵便から読み解く「ふつうのドイツ兵」ー第二次世界大戦末期におけるイデオロギーと「主体性」ー』山川出版社、2012年」現代史研究会、2013年10月12日（法政大学）
- ・「ヴァンデー風化を拒む過去ー」歴史と人間」研究会・現代史研究会共催シンポジウム「地域史再考ードイツとフランスの事例からー」2013年12月15日（一橋大学）
- ・「制度の政治思想史ー安藤裕介『商業・専制・世論ーフランス啓蒙の「政治経済学」と統治原理の転換』(2014)を読むー」第39回社会思想史学会、2014年10月25日（明治大学）
- ・「公共哲学から公共性の思想史へ」、第15回一橋哲学フォーラム、2015年11月1日（一橋大学）
- ・「ジョナサン・イスラエル『精神の革命』をめぐって」、13回一橋・社会思想セミナー、2017年3月2日（一橋大学）
- ・「公共性の思想史へ（4）アンシャン・レジームは改革可能か？ー黒木龍三・安藤裕介編 *The Foundations of Political Economy and Social Reform: Economy and Society in Eighteenth Century France* (Routledge, 2018)を読むー」第16回一橋・社会思想セミナー、2019年1月26日（一橋大学）
- ・「フランス啓蒙の女性論ーエルヴェシウスを中心にー」御茶の水大学ジェンダー研究所セミナー、2019年2月15日（お茶の水大学）
- ・「重田園江著『統治の抗争史：フーコー講義 1978-79』(勁草書房)を読む」、第23回フランス政治思想研究会、2019年7月25日（東京大学）
- ・「政治理論とインテリクチュアル・ヒストリーー永見瑞木『コンドルセと〈光〉の世紀：科学から政治へ』(白水社、2019年)を読む」第44回社会思想史学会、2019年10月27日（甲南大学）
- ・「公共の思想史へ（5）ジョン・ロバートソン『啓蒙とはなにか』ー邦訳と啓蒙研究の最新動向ー」第18回一橋哲学・社会思想セミナー、2020年2月18日（一橋大学）

(H) 研究プロジェクト

- ・科学研究費 奨励研究 (A) 「18世紀フランスにおける奢侈論争」1996.4-1997.3
- ・科学研究費 挑戦的萌芽研究 「ロブリエール家文書を取り巻く世界ーフランス貴族所領経営と領主文書の謎を解く」2012.4-2015.3（研究分担者）
- ・科学研究費 基盤研究 (C) 「近世フランスにおける社会構想の複数性と革命ー〈個人〉を起点として」2015.4-2018.3（研究分担者）
- ・科学研究費 基盤研究 (C) 「比較による日本の近世フランス史学のための基盤的研究ー語彙をめぐる検討から」2018.4-2021.3（研究分担者）
- ・課題設定による先導的人文学・社会科学推進事業 課題 A 「分野間比較を通じた質的研究アプローチの再検討」2021.4-2024.3（研究分担者）

(I) その他（コラム・辞書項目など）

- ・「エルヴェシウスと『精神論』事件（1758ー1759）」、『一橋大学社会科学古典資料センター年報』第12号、1992

年3月、10—14

- ・「フェヌロンの奇妙な人気」、『一橋大学社会科学古典資料センター年報』第16号、1996年3月、17—21
- ・「エルヴェシウス」、『フランス哲学・思想事典』小林道夫・小林康夫・坂部恵・松永澄夫共編、弘文堂、1999年1月、122—125
- ・「記憶をめぐる問題」、『日本18世紀学会年報』、第15号、2000年7月、21—23
- ・「モンテスキュー」、『歴史学事典』第9巻、山本博文編『法と秩序』、弘文堂、2002年月、627-628
- ・「奢侈論について」、『日本18世紀学会年報』、第20号、2005年6月、6-8
- ・「富をめぐる振る舞い」、『日仏文化』84号（渋沢・クローデル賞30周年記念号）、日仏会館、2015年3月、89-91
- ・「エルヴェシウス」「快樂主義」、『哲学中辞典』知泉書院、2016年11月、120-121、162-163

6. 学内行政

(A) 役員等

- ・評議員（2020.4-）

(B) 学内委員 [入試関連業務は除く]

- ・学生委員（2005.4~2007.3）
- ・学部教育専門委員（2008.4~2010.3）
- ・大学院教育専門委員（2012.4~2014.3）
- ・社会科学古典資料センター運営委員（2012.4~2016.3）

7. 学外活動

(A) 学会活動

- ・日本18世紀学会幹事（1995.4~1999.3）

(B) 公開講座・市民講座等

- ・「啓蒙思想と世論——八世紀フランスの場合——」（一橋大学兼松講堂）2007.12.15
- ・「ともにしあわせになる商人像—18世紀フランスにおける商人に学ぶ」（フェリシモ幸福共創学塾）2008.12.10
- ・「ヴァンデから見たフランス革命とその記憶」（一橋大学兼松講堂）2016.6.18

(C) 出張講義

- ・「ヴァンデから見たフランス革命とその記憶」（海城高校）2016.7.15.

(D) 他大学非常勤講師

- ・中央大学文学部 2000.4~2001.3

8. 受章

- ・ポール・クローデル賞藤田亀太郎特別賞（著書『名誉と快樂—エルヴェシウスの功利主義—』に対して）、1994

年6月